

2017年の里山の会の出来事やイベントから選びました。候補項目54のいずれにもしっかりした理由が明確にあり、里山の会が歩んだ実績がしっかりと蘇りました。前週の700号記念号に全候補項目が時系列で掲載しております。参考にしてください。ご協力いただきました皆様、1年間本当にご苦勞様でした。来る新年も変わらずご活躍をお願いいたします。

●2017年里山の会 10大ニュース 1 カスミサンショウウオ10年ぶりに成体発見 2 週刊ニュース700号発行

3 京の七夕への竹笹提供 4 親子で遊ぼう学ぼう魚とり 最高333匹ゲット

5 夏原グラント活動支援でナラ枯れ木撤去 農園の安全度アップ

6 竹蛇簞の製作27本完成。中聖牛設置315人で完成竣工

7 桜谷先生の熱心な指導で農園活動充実

8 河川協力団体の指定で木津川希少種植生調査業務受注

9 親子花見乗船体験 474人 10 新人レンジャー村上さん誕生で中西さんと共に若返る

次点 農園作業は年間90日実施、294人が来所 次点 ヤブカンゾウ大群落発見開花350本つぼみ350本

次点 初めて夜の生き物調査実施 25人参加 23000匹確認

●亀の瀬地滑り歴史資料館見学 22日 奈良県と大阪府の境に大和川が流れている。そして国道25号線が通過して、関西本線が通る交通の要衝です。此处に亀の瀬と訪れる大昔から地滑り地帯と呼ばれてきた。此处に国交省の地滑りを止める工事が行われ、その全貌を示す施設がある。約1kmに及ぶ地滑りをストップしようというものである。水抜き装置や巨大なコンクリートの杭を埋設して、今では滑りがほとんど止まっているということであった。

●冬の昆虫観察会 23日 オオムラサキ17匹・ゴマダラチョウ20匹、ミドリシジミ卵54個確認 26人

1998年からオオムラサキの観察を開始以来48回目の観察会である。参加者は最も多く26名の参加があった。ゴマダラチョウは20匹、オオムラサキは17匹の幼虫を発見した。これまでは現地の榎の落ち葉をめくる調査方法から今年はエノキの周りの落ち葉をビニール袋に収集して、教育棟で広げて見つけることにした。効率的であり、楽しい幼虫探しとなった、そして数え終わると元の木の根元に戻した。昼食後、最初にハンノキの林を訪ね、森の宝石といわれるミドリシジミの越冬する卵を観察した。50本を超えるハンノキ林で調査観察を行った。

●カスミサンショウウオの生育保全検討会議 23日 今年の10大ニュースで第一位をしめたのがカスミサンショウウオの成体発見であった。卵嚢を発見して10年ぶりの大発見で、そして京都南部初の出来事であり、貴重な生育地であることが明確になった出来事である。これは、誰もが為し得えなかった大発見である。この生き物がいつまでも京田辺市で生きながらえる環境を維持したいものである。京田辺市の役割でもある。10年前の卵嚢を発見した山続きの場所で、桜谷先生の執念と思われるご指導のお陰である。里山の会だけでは、ここまで継続観察調査を続けてこられなかった。先生のリーダーシップに負うところが非常に大きいといわなければなりません。京都新聞の案内記事で来られた方多くあった。

●年末記念の餅つき会 24日 15人参加 24日天気は雨が50%降るとされていたが、朝のうちに少々ばらっただけで、準備を始めるころにはすっかり晴れ上がり、暖かい好天気となった。皆さん手慣れたもので、5臼分を手際よく突き上げた。アツアツの餅を“餡入り餅”や“あんころ餅”にしておいしくいただいた。そして“黄粉もち”にも挑戦して、美味しくいただけた。それにしても大勢の皆さんと一緒に、にぎやかに食べあうと、大変美味しく、楽しかった。 昨年は安全と衛生面からの不安があって実行しなかったが、やはり取り組んでみると非常に面白かった。

●しめなわづくり 24日 15人参加 毎年恒例の注連縄づくりを今年も行いました。参加者の皆さんは大村副理事長の指導を受けて、わらしべを取除き、きれいな茎を整えて縄をないました。中学生となった中西君は初めてのわらで縄をないました。難しいのは手のひらでよりをかけながら名和にしていけることです。基本の

よりをかけるために手のひらの使い方と力の加減が必要ですが、上手にマスターをして、見栄えのあるしめ縄を作り上げました。午後からはすっかり陽射しがさして、暖くなり気持ちの良い取り組みとなりました。

●**尾根筋ハイキングコース年末清掃 25日** 12月の第4週は20日のパソコン教室から連日の取組みが続きました。25日は朝から雨が降り続き冷たい朝でした。9時に登山口に到着すると誰も来ていなくて倒れた竹の片付けしていると森島さん播川さんそして有田さんが駆けつけていただいた。三人にはコースの点検と清掃のために登っていただきました。私は登山口の除草を行い、炭焼き小屋周囲の除草に回りました。頃合いを図ってコースの太田尾の交差点の除草を済ませると約1時間30分かけて到着です。これまでになく時間がかかりました。ここで播川さんが持参いただいた特別大きな米2合分のおにぎりとお卵スープをいただき休憩です。早々に昼食を済ませ、天気が心配なので休憩もそこそこにして、引き続きコースの点検に出ていただきました。そして炭小屋の除草と二つに分かれました。コース上では台風21号の影響と思われる倒木や倒竹が続き、なかなか前進できませんでした。炭焼き小屋の周囲は昨年除草をしていないので、ものすごい雑草と藤蔓が絡んでいました。この日は皆さん予想を超える難儀な取組みをこなしていただきました。ご苦労様でした

●**山城大橋東詰め下広場のゴミ拾い 27日 事務局会議の後2時間実施** 年末といえば駐車場に予定している東駐車場予定地のゴミ拾いです。拾い集めたごみの量は15袋が満杯となりました。そこに桑の木が成長していて30cm位の太さとなり、高さは4mになるものもありました、伐採して積み上げると大人の高さに積みあがりました。北風が吹きすさぶ寒波到来の中でのゴミ拾いでした。15時には八千代エンジニアリングさんの来訪が予定されているので、残作業は年明けに行うことにして約2時間の清掃作業で切り上げました。寒さがとりわけ厳しい中で大奮闘いただきましてありがとうございます。



読み

京田辺に絶滅寸前種

同会はその後、産卵期と孵化期の毎年2月と3月、成体の存在を確かめようと調査を繰り返してきた。昨年3月には約9年ぶりに2か所で卵塊を発見。今年はい

カスミサンショウウオの個体数は少なく、開発や水田の放棄で環境が悪化。府は種の保存条例で希少野生生物(全25種)に指定し、捕獲や殺傷などを禁じている。府などによると、2005年以降に卵が成体が確認された府内の自治体は、京都市や南丹市、南山城村など計7市町村。京田辺市では同会が07年に調査を行い、山間部の棚田跡で卵塊を見つけていた。

カスミサンショウウオ

府の絶滅寸前種に指定されている日本固有種の両生類・カスミサンショウウオの成体が、京田辺市内で発見された。府南部の自然環境保護に取り組むNPO法人「やましろ里山の会」が約11年にわたる地道な調査で確認した。府は「保護に向けて弾みがつく」と評価している。(上野将平)

京田辺市で確認されたメスとみられるカスミサンショウウオ。(やましろ里山の会提供)

NPO調査11年 府「保護へ弾み」

希少生物の生態に詳しい関係者に「探索の時期を早めては」と助言され、1月22日、昨年に卵塊があった地点の周辺で水辺などを調べた。その結果、落ち葉の下から成体2匹(体長約10センチ)を見つけ、捕獲に成功した。

1匹は全体が黒色で胴体部分が太くなっていることから、同会は産卵準備中のメスと判断。もう1匹は薄茶色でオスとみられる。2匹は元の場所へ戻し、土地所有者と連絡を取って保護への理解を得たという。

同会の山村武正・常務理事(76)は「11年間の努力が結実して、発見した瞬間は興奮した。自然の豊かさの象徴として、市民にも保護の思いが広がってほしい」と強調。府自然環境保全課の鈴木康久課長は「目撃情報があつて初めて、種の保存状況や今後の方針を決められる。貴重な発見だ」と話した。

